

第 14 回 山手アクション実行委員会 (第 33 号)

「一部の人たちが必死に頑張っても社会は変わらない。少しでも多くの人が、ちょっとずつでもいいから意識を持つこと。そのことについて私たちは何ができるのか」

そんな思いから、私たちは誰もが知っている山手線沿いを 1000 人というかつてない規模で楽しくごみ拾いします。街をきれいに、自分自身もきれいに。そしてその輪を広げ、周りに気遣う社会に変えてやる!

このようなことから山手アクションは発足しました。主な目的は 2 つあります。

1 つは、市民への啓発活動です。学生が大人数でごみを拾っている姿を通じて、地域の方や電車に乗っている人々の地域美化に対する意識向上につなげられたらと思います。

2 つめの目的は、今回の企画に参加してもらうことでごみを捨てることを減らすことです。あまり歩く機会のない山手線沿線を、学校の枠を超えた大勢の学生でごみ拾いするのは絶対に楽しいはずですし、ごみ拾いを通じて新たな交流の場になればと考えています。

思い付きから広がった輪

僕がてと「ごみ拾いを他大学のひとかとお勢でやったら面白そうじゃないですか?」といった一言から 2009 年度エコリーグ(全国青年環境連盟)代表理事の美濃部真光氏と偶然会う機会を得、美濃部氏の「やろっか?」の一言で、山手アクション実行委員会は 2009 年 2 月 5 日、発足しました。実行委員長は明治大学環境サークル「クレパス」の金子真弘です。その後の広報活動やさまざまなイベントを通して少しずつ仲間が増え、25 人の実行委員が集結しました。

活動の参加者からは、「環境への意識が変わりました。来年もやりたいです」「お疲れ様でした、次回開催へ向けて頑張ってください」「皆が一緒になって一つのことに取り組むのは、素晴らしいです!」「とても楽しくごみ拾いができました! ありがとうございます!」など、ありがたい言葉をいろいろもらい、本当にやってよかったと思いました。また、ごみ拾い活動中に、地域の人たちに「ありがとう」とか「ご苦労様」といわれたのは本当に嬉しかったです。この企画の素晴らしいところは、いろいろな人と一緒に活動を築き上げたことだとつくづく思います実行委員のほとんどの学校はバラバラです。ですが、そこが魅力だと思いました。何もしないゼロのところから毎週集まって企画し、そのたった 3 か月後の 5 月 17 日には、47 学校の 300 人以上の学生が、山手線沿線の 7 つの区で一斉にごみ拾いを実行しました。

最初は企画の練り直しが何度も続き、つらいだけでしたが、いろいろな人に励まされ最後までやりきることができました。今も実行委員の皆は大切な友達です。

今年もやりますので、ぜひとも応援してください。(文責 佐藤 翼)

